

☆命を救う自衛隊、命を奪う自衛隊

どちらを選びますか？

(一) 能登半島地震！ その時自衛隊と防衛省は・・・

◆元旦夕刻起きたこの地震に対し、防衛省は翌日自衛隊員約千人を派遣しました。派遣された隊員達は、悪天候の中で、泥まみれになって苦闘していました。

◆このような最中、暖房の効いた部屋で勤務していた防衛省の幹部が九日、勤務中「時間休」を取り公用車で靖国神社に参拝しました。昨年沖縄で起きた航空機事故に鑑み、「隊員の安全を願って」参拝したとのことでした。

(二) 政府・防衛省の顔・・・どちらを向いているか

◆靖国神社は先の大戦のA級戦犯を合祀する「戦争神社」とも言われる神社です。敷地内にある「遊就館」は戦争讃美で溢れています。

◆なぜ「安全祈願」を靖国神社でしなければならぬのか？どこの神社でもよいはずですが、しかも部下が災害地の寒風の中泥まみれになって苦労しているのを尻目に「時間休」を取って公用車でゆく神経がわかりません。

◆時間休を許可した上司の神経も分かりません。「いま部下が能登で苦労しているのだ。やめておきなさい」と言うのが普通でしょう。ここに政府・防衛省の本音が見えるように思いませんか？

(三) 国民の自衛隊評価

◆内閣府の「自衛隊・防衛問題に関する世論調査」で「自衛隊に良い印象を持っている(どちらかといえば含む)」という回答が91%(2022年)という驚くべき数字があります。国民は自衛隊の何を見て答えているのでしょうか？

◆国民は、憲法九条の「戦争放棄」条項により自衛隊は戦争はせず(練習はしますが)、もっぱら災害派遣など人道的活動に貢献してきた姿を見ているのです。同調査で自衛隊のこの姿に対し88%が評価し支持しています。

(四) 私たちは命を救う自衛隊を選ぶ

◆わが国の政権は「陸海空軍その他の戦力は保持しない」という憲法九条を無視して、戦争の出来る自衛隊を育ててきました。そしていつかこの国が戦争の出来る国となり、自衛隊が命を奪う戦争の出来る日願っている様に見えます。

◆私たちは自衛隊を唯一「命を救う自衛隊」に変える事を求めます。

二〇二四年三月十日(日)護憲平和行進(通算685回目)
★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

★講演会のお知らせ…3月27日18時半〜21時。アクト研修センター402号室
講師…奥間政則氏(沖縄在住)。演題「二つの国策」(沖縄基地&ハンセン病問題)



日本国憲法 第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段とし、
前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。
国の交戦権はこれを認めない。